令和５年度　　園評価書

園番号　　1　　園名　上土こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心もからだも 元気な子	おもしろいこと 考えよう やってみよう	園児は「なんだろう」と自分で考えたり「やってみよう」と試したりしながら遊びを楽しんでいる	・子どもが自ら遊びや教材を選択できるような環境を用意したことで、興味・関心をもって遊び出し、試行錯誤しながら繰り返し遊ぶ姿がある。保育教諭は外と中、昨日と今日の繋がりを意識した環境作りを整えていきたい	A	A	・子どもの興味に寄り添い、先生たちがとことん付き合う姿がある ・優しい子が多いのは先生たちの叱らず、褒めや良いところを認め、声に出して伝えてくれるからだと思う専門性を感じる ・重点目標につながるように環境を整えている。物・人・子どもの気持ちのに表れにもつながっている	・公開保育や園内研修、園外研修等での学びを深め、自分事として何が出来るかを考え、実践していく。 ・各クラスの遊びの拠点作りを考え、遊びの繋がりからの環境作りを行う ・小グループやサークルタイム等子どもたちとの伝え合いが活発になる環境を考えていく ・子どもの「やりたい」が実現出来る環境作りの中で、遊具・用具での怪我、ヒヤリハットを視覚化し、原因を探り改善していく ・保育教諭が遊びのレパートリーを増やし、体を動かす環境の幅を広げていく
		園児は、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたり共感したりしながら、身近な人との関わりを楽しんでいる	・友達と思いを伝え合う機会作りをしたことで、自分の言葉で伝えたり相手の思いに気付いたりする姿が見られた。保育教諭は、子どもの姿から自身の出番を見極め、人との関わりを楽しめるようにしていく	B	A		
		園児は、「やってみよう」と体を動かすことを喜び、次への意欲が育っている	・発達や年齢に合わせて遊びの拠点が用意され、一緒に体を動かすことで“明日もやりたい”と意欲的に体を動かす姿が増えた。可動遊具が増えたことで組み合わせ方や場所によって怪我も見られたため遊び方等改善が必要と考える	B	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育教諭は子どもの育ちを捉えながら学年目標に向けて保育を行っている	・各学年の年齢や発達を職員間で共有し、興味に沿った遊びの拠点を作り“もっとやりたい”という思いを実現できるよう保育を行った。様々な素材や可動遊具を使用し、経験の幅が豊かになっている	A	A	・子どもたちが活き活きと活動している。子どもの楽しいを一緒に考える先生たちの関わりがあるからだと感じる ・保育者の行事との出会わせ方、仕掛けがうまいと感じる。単純に行事をやるのではなく、子ども自身が気付き、発想を膨らませるのがうまい。リーダー中心に組織的に対応している成果だと思う ・大型地震の際に子どもたちの安全を守るために、子ども側と環境側と両方の強化を考えていくことが重要である ・食育も掲示や集会等、様々な工夫が感じられた ・特別支援では、コーディネーターの役割や管理職とのつながりも含め、保護者にどう関わっていくかが重要である。多様な価値観の方へのアプローチや家庭教育も今後の課題と考える ・保護者にわかりやすく日々の様子を伝えている。参加会や保護者参加のイベントがより多くあると園の情報が共有できると感じた ・ICTの活用は小学校でも行われている。活用してやりたいことも多くあるが、wellbeingで職員の働き方についても考えて教育活動を考えていかなくてはと感じる ・学校との交流では、高校生だけでなく小学校も総合学習がある。今後、つながっていくと感じる ・園として重点目標につながるような取り組みが見られた1年だった。こどもの「やってみよう」のつながりは、先生方の努力があって成り立っている	・学年目標、園目標等は日誌に貼り、振り返りながら週案や月案検討へ活かしていく。また、担任が横の繋がりを意識し、保育のすり合わせを行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	保育教諭は、こども一人ひとりの心身の健康状態を把握し、安心して園生活が送れるようにしている	・子ども達が登園してすぐにやりたいことや好きな遊びが楽しめるよう、早遅番の保育室の環境を整え、日々の保育とのつながりを意識した。早番・遅番時間の環境の整備のを日々の遊びの実態と繋げながら、整えていく	B	B		・子どもの遊びや興味・関心に合わせた環境作りを子どもの実態を伝えあいながら、取り組む事を明確にして役割分担しながら実践していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	保育教諭は、子どもの今日の楽しいの姿から次への手立てを考え、環境を作っている	・遊びのつながりを大切にしながらその都度子どもの興味・関心を捉え、環境構成をすることができた。室内での明日への環境作りは出来つつあるが、園庭での遊びの今日から明日への遊びの繋がりの環境作りを目指していきたい	B	B		・園庭の遊びの終わり方を考える。また、園庭プロジェクトを活かした環境作りを行っていく ・環境の作り方を他クラスの職員と相談する機会を増やし、共有しながら行っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は定期的に安全点検や避難訓練等、危機管理意識をもち全職員が安全な対策がとれるよう努めている	・毎月の避難訓練で、子ども達の自己防衛の意識も高まり落ち着いて行動ができている。職員もその都度、課題を分析し検討及び改善している。保育教諭一人ひとりが、主体的に動く意識を高めていきたい	A	A		・警察官や消防士等から学ぶ機会を設ける ・災害時の役割の確認を定期的に行う ・職員一人一人が自分で考えて行動する意識を高めていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、健康に過ごすための基本的な生活習慣や食に関する意欲を育てるよう努めている	・食育の集いを通して、子ども達が楽しみながら食や健康に関心や意識を向けられる食育活動を実施した。調理員と連携を深め、職員も食材、栽培物の知識を深め、年齢に応じた健康教育を行っていきたい	A	A		・給食室との連携を図り「〇〇名人」などとして食育活動に参加の機会を増やす ・生活習慣や食についても絵本係と連携を取り絵本等の視覚教材を活用していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人の育ちの理解を深め、育ちに沿った適切な関わりを行っている	・特別支援研修で得た支援方法を園内で演習する等、職員で共有する機会が増えた。支援児の担当会議を定期的に行い、子ども理解、関わり方等を検討し日々の保育に活かすことが出来た。担当者以外の職員の支援の共有が弱い	B	A		・担当職員以外も含めた、支援児会議を実施し、支援の共有と支援方法の幅を広げる ・担任間での話し合いを記録し、環境や支援の見直しを行い、職員会議で共有する
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は、自身の役割に見通しと責任をを持って取り組み、全職員で共有しながら計画的に行っている	・乳児・幼児・分掌のリーダーが主体となり、園全体・クラス全体のことを考えて、それぞれの職員が見通しをもって、自身の役割を意識し取り組んでいる。職員一人一人が自分事として、捉え行動に移していきたい	B	A		・職員間の情報共有をしながら園運営が遂行できるように、担当・期日を明確にし、紙面や口頭で確実に伝達及び確認をする。また業務の確認会議を行う(週１回リーダー会議)
6 研　修	(1)研修体制の充実	保育教諭は、園内研修を通して子どもの姿を語り合い、日々の実践や公開保育を振り返り、重点目標や研修テーマの実現に努めている	・一人ひとりの子ども理解や遊びへの意識も変化し、子どもと共に職員もこども理解が深まり、話し合いが活発になってきている。視点を同じにしてきたため、同じ目で見ることが出来るようになった	A	A		・研修等の共有の仕方や公開保育・園内研修の参加方法を考え、保育教諭一人ひとりが、園の教育・保育活動に見通しや長期的な視点を持って取り組めるようにする
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園はヒヤリハットを検証したり、安全点検を行ったりしながら、安全な園庭・室内環境を作っている	・可動遊具、乳児園庭の増設など園庭の大改造を職員全体で取り組んだ。今までと違う環境でヒヤリハット報告も挙がったが、原因と対策を明確にし、迅速に改善し会議や報告書で職員間の共有した。	A	A		・起こりうる危険をシュミレーションしたり、事例検討を行ったりし、様々な対応力を身に付けられるようにする。ヒヤリハットや怪我が起きた場所を視覚化し、共有していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、家庭とのつながりを大切にし遊びや生活の様子を情報発信し、保護者と子どもの育ちを共有できる関係作りに努めている	・玄関ホールを活用し、日々の遊びや子どもの育ちをドキュメンテーションや作品掲示等で保護者へ発信した。行事と日々の繋がりを意識し、速報だよりで取り組み経過を伝え、保護者も当日まで楽しみながら過ごすことができた	A	B		・園行事に保護者参加可能日を作っていき情報発信の機会を増やす(食育の日など) ・情報発信基地としてのねらいを常に考えて、玄関ホールを継続して活用していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	園は、近隣園、学校と連携を図り、園見学や公開保育、公開授業に参加しあい、情報交換を行っている	・公開保育、公開授業等に参加し、参加後は他園からの学びを共有をし自園の環境作りに活かした。長沼こども園、農業高校、近隣の小学校との関わりを多く持ち、園外の人に親しみをもって接する姿が見られた	A	A		・他園との交流の声掛けを積極的に実施する。乳児クラスもデイサービス等、歩いて行けるところに散歩に行って交流をする。行くことが難しい場合は写真等で情報を共有する
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、地域の方との触れ合いの場を作り、親しみを感じながら豊かな生活体験ができる機会を設けている	・一時保育やおしゃべりサロンの利用者が前年度より増加し地域の方たちの認知度も向上している。千代田消防署や古庄交番等、身近な施設との交流も増え、人との繋がりや憧れの職業に触れる機会となった	A	A		・地域との関わりの強化するために、日々と行事との見通しをもった繋がりを考え、こちらからアプローチしていく （介護施設・地域の商店・防災等）